

新年のご挨拶



皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年末には、厳しい寒波が日本列島を襲い、例年になく積雪と吹雪で事故に遭われた方も日本各地で大勢おられました。また停電により大きな障害が発生し日常生活にご苦労をされた方々もいらっしゃいました。こうした自然災害に被災され、お亡くなりになられた方もおられ、そうしたご家族、ご親族、関係者の皆様には、謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

昨年一年を振り返ってみますと、ロシアによるウクライナ侵攻、過去最多となる北朝鮮によるミサイル発射、最初に発見されてから3年が経過してもまだ終息の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症、経済面では1ドル150円を超えた急激な円安と物価高騰等々、数多くのニュースが発信されましたが、世界的にも先行きの不透明感がより一層強まった一年ではなかったでしょうか。国内では、参議院選挙、そしてその最中に日本を震撼させた安倍晋三元首相への痛恨の襲撃事件もありました。ミャンマーに大きな理解を示してくれていた安倍元首相のご逝去に接しては、ミン・アウン・フライン国軍総司令官より丁重な弔意メッセージを頂戴しました。

一方、昨年は、例年になくスポーツ界での明るい話題が多く発せられた年だったと思います。2月に開催された北京冬季オリンピックで日本は過去最多の18個のメダルを獲得、大リーグではエンゼルスの大谷選手の2年連続の大活躍、日本のプロ野球でもヤクルトの村上選手が日本人シーズン最多本塁打となる56号を放ち三冠王、全国高校野球では仙台育英高校が東北勢で初めての優勝、そして11月から12月にかけてカタールで開催されたFIFAワールドカップでの日本代表の大活躍などがありました。こうしたスポーツ界の明るい話題は、暗いニュースが多い中で日本人を本当に勇気付けてくれました。スポーツの力を感じた一年でした。

新型コロナの流行が続く中、日本では昨年のお盆期間に3年ぶりに行動制限が解除されたところ、帰省や旅行などで人の移動が活発化し、休み明けの一日の新規感染者数は26万人を超え、過去最多を更新してしまいました。ワクチンの接種も進んでいるにも係わらずウィズコロナが常態化し、安定した流行の域に入ってしまった

ようです。今年に入っても、まだまだ気を抜けるような状況にはないと思います。

ミャンマーの方はどうかと見てみると、コロナ感染者は見受けられるものの、重度な症状を発症するケースも少なくなっているようで、現地企業活動には大きな影響が少なくなっている状況のようです。ヤンゴン市内ではマスク着用者も減ってきているようですが、引き続き感染予防を徹底しながら日本企業の皆さんも活動を継続されています。ティラワ SEZ でも、一昨年引き続き昨年も一度もストップすることもなく稼働しているとお聞きし、改めて大変心強く思った次第です。私としましても、こうした日本企業の皆様のご尽力に敬意を表すとともに、深く感謝したいと思います。

そうした中で、ミャンマーでの国際線旅客機の着陸禁止措置は、幸いにも昨年4月17日に解除されました。しかし、誠に残念ながら日本からの直行便はストップとなってしまい、現在ではバンコック他経由での毎日運航となっています。そうした経由便の利用も含めて、昨年私は、節目節目で3回ほどミャンマーへ出張いたしました。例年に比べれば半分程度の出張となりましたが、ミン・アウン・フライン国軍総司令官(兼国家統治評議会議長、兼暫定政府首相)はじめ現政権の閣僚の方々、関係者の方々等々と毎回じっくりと話し合いを行うことができました。

一昨年の2月1日、国軍によって非常事態が宣言された行動は、私にとって本当に痛恨の極みでありました。翌日の2月2日には、ミン・アウン・フライン国軍総司令官を議長とする「国家統治評議会」(SAC)が設置され、前政権の政策継続が内外に表明されました。一昨年8月1日には、SAC議長である国軍総司令官が暫定政府首相に就任し、2023年8月までに総選挙を実施すると表明、同日暫定政府を発足させ、連邦大臣を任命しました。その後、連邦選挙管理委員会も正式に発足し、有権者名簿の見直しを行ったり、比例代表選挙制度導入を検討したり、市民権精査カード(CSC)を発行したり、投票箱の準備をしたり、総選挙に向けて着々と作業が進められて来ていることは、民主主義に向かって歩んでいる上で大変嬉しい事であると思います。

私は、その間も何度も総司令官と会って意見交換を行ってきました。2020年の不正選挙があったとする総司令官の訴えを何度も聞きながらその心情を汲み取り、その度に「民主主義の下の選挙でも100点はない。米国の大統領選挙の結果を見てもそうだし、日本でも選挙違反はある。」と私は説明してきました。そして、国軍が如何にスムーズに民主的な元の姿に戻せるか、テイン・セインさん、スー・チーさんのあの時代の政治形態に戻せるか、それが今の国軍の責任と使命であることを、これまでも何度も申し上げてきました。

多党制民主主義に移行して以来、3回の総選挙が行われました。これまで全国には330のタウンシップがあり、2010年の選挙は325タウンシップ、2015年の

選挙は 323 タウンシップ、2020 年の選挙は 315 タウンシップで実施されました。選挙が行われたタウンシップの数は漸減していますが、その背景には、治安と安定の欠如がありました。そのために、ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、継続的に武力紛争の停止と情勢の安定に優先的に取り組んできました。「2022 年を平和の年」と定め、彼自身が自ら主な少数民族武装勢力と直接和平協議を精力的に実施してきていました。そして昨年末には、ミャンマー国軍と 5 つの少数民族武装勢力が、ネピドーで開いた会合で、総選挙を実施して多党制民主主義に移行することなどで大筋合意した、というニュースも飛び込んできました。そして年初には、さらに 3 つの少数民族武装勢力と合意に達したとのニュースもありました。総選挙に向けた周りの環境整備が着々と進んでいると言えるかと思います。

ミャンマー国民和解担当日本政府代表であり、私が友人として最も信頼、尊敬する日本財団の笹川陽平会長もご尽力を精力的に継続され、昨年 11 月末にはミャンマー国軍と西部ラカイン州の少数民族武装組織「アラカン軍」との停戦合意をまとめ上げられました。こうしたことも、総選挙に向けて情勢を安定させていく大きなものだと思います。そうした笹川会長の弛まぬ行動力とミャンマーに対する熱い思いに改めて強い感銘を受ける次第であります。

本年 2 月 1 日で非常事態宣言は終了となります。当日発表されるミン・アウン・フライン国軍総司令官のスピーチの中で言及されるであろう総選挙へのロードマップに大きく期待したいと思う次第です。そして、総司令官がいつも言っている「目標達成に向けて前進し続ける」の言葉通りに、ミャンマーを次のステップへ大きく前進させて欲しいものです。多党制民主主義体制の強化と、民主主義と連邦制に基づく連合体体制の構築という 2 つの政治目標を是非実現して欲しいと思います。

本年も日本とミャンマーの両国間の関係強化・発展に貢献できるような活動を継続し、会員の皆様のお役に立つようにその責任を果たしていきたいと考えております。そして、当協会の活動が以前のように、より活発化していくことを祈念しております。本年も当協会の理事、会員の皆様からのご指導、ご鞭撻をお願いする次第であります。

皆様の今年一年の益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げながら、併せて当協会への変わらぬご指導とご支援に感謝申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

2023 年

日本ミャンマー協会会長
渡邊 秀央

